

日本NGO連携無償資金協力国際協力重点課題事業概要(2期目)

6. 事業内容	(イ) お産センターの建設 ① お産センターの建設(5棟) 申請時には1郡に6棟のお産センターを建設する予定であったが、今期事業地のカリコット郡は初年度事業地のダイレク郡以上に交通の便が悪く、建築資材の運搬により多くの費用がかかることに加え、ネパール国内のインフレに伴う建築資材の高騰もあり、予算内で建設できる棟数として5棟が妥当と判断し、1棟を減ずることとした。 ② お産センターに必要な機材・設備の提供 ③ 郡病院へのソーラーパネル及びワクチン保存冷蔵庫の提供 (ロ) 公共保健機関のキャパシティビルディング ① 郡リプロダクティブヘルスケア委員会の機能強化(ミーティング実施の促進) ② VDCレベル保健医療施設マネジメント委員会への研修 (ハ) 望まない妊娠のリスク軽減・出産介助スキル向上 ① 医療従事者へのインプラント研修 ② 出産介助者(SBA)への出産介助研修 初年度申請時は研修受講者を6名としていたが、予算内で受講生の人数を12名まで増やせることが判明したため、初年度の途中、変更申請書を提出の上で受講人数を6名から12名に増やした。今度も引き続き、12名の出産介助に対して出産介助研修を実施する。 (ニ) 青少年に対する健康教育・啓発 (申請時:「出産準備キット使用方法研修の実施」) ① 青少年を対象にした性教育(ASRH)研修 初年度申請時に予定していた「出産準備キット使用方法研修」はネパール政府によってほぼ完了しつつあり、ニーズは収束している。現在、政府は総人口の24.1%を占める10歳から19歳の青少年を対象とした性教育(以下、ASRH)の重要性を指摘しており、国家リプロダクティブヘルス戦略(※注)に挙げられている8項目のうち、ASRHを課題としている。よって、第2期ではこの課題に即し、出産準備キット研修の代わりにASRH研修を実施する。
---------	---

(特選) ASRA Japan

「若年・妊産婦に対するための栄養増進、医療スタッフスキル向上トレーニング」

成長過程において重要な時期である青少年期に性に関する正確な知識を身につけ、成熟した人格を形成することは、ネパールの将来を担う人材の育成にとって重要である。ASRH 研修を通じ、近年問題視されている早期の性交渉及びそれに伴う若年結婚・出産、避妊具の不使用による母体への過度な負荷などに加え、望まない妊娠とそれに伴う中絶、HIV/AIDS などの性感染症に関する知識を提供する。現在、既にネパール西部を中心にパイロットプログラムが実施されている。

ASRH は政府の方針に基づき、まず研修を実施する医療機関を選考し、その上で郡保健責任者 (District Health Manager) に対する研修を行なう。その後、郡リプロダクティブヘルスケアセンター職員、保健サービス提供者、保健医療施設マネジメント委員会及び地域ステークホルダーに対しても研修を実施する。最終的には、これらの研修を受講した人材が、地域の青少年を対象に ASRH を実施する。

研修受講人数は、カリコット郡の郡保健責任者 6 名、郡リプロダクティブヘルスケアセンター職員 30 名、保健サービス提供者 60 名、保健医療施設マネジメント委員会及び地域ステークホルダー 260 名である。間接裨益者は、ASRH を通じ性・リプロダクティブヘルスに関する知識を習得する、カリコット郡内の青少年 25,798 名である。

(注：ネパール政府が定める国家リプロダクティブヘルス戦略には、課題項目として ①家族計画・避妊 ②周産期ケア ③乳幼児に対する予防接種 ④HIV/AIDS ⑤老人介護 ⑥性暴力 ⑦安全な施設などでの出産 ⑧ASRH が挙げられている。本事業の「リプロダクティブヘルス」においては、これらのうち①②③④⑦⑧に着目した活動を行なう。また、上述の通り ASRH は単独の課題項目であるとともに、その研修内容に①や④の内容も含まれている)

(ホ) マスキャンペーン

- ① リプロダクティブヘルスについてのラジオ放送とパネルディスカッション、青少年対象の性に関するパンフレット作成、簡易保健所にリプロダクティブヘルスコーナーを設置

(申請時：「ラジオ放送、国際デーイベント実施、ストリートドラマ、女性ヘルスコミュニティボランティアのベストプラクティス賞」)

リプロダクティブヘルスに関する正しい知識を普及させるためには、幅広い層に対して情報を提供する必要がある。ラジオ放送を通じて母子保健やリプロダクティブヘルスの重要性を伝えるとともに、同テーマに関するパネルディスカッションをラジオで放送し、その重要性を住民全体に啓発する。

ラジオは、カリコット郡では 66.4% の家庭に普及しており (District Profile of Nepal/2008 より) 集客の必要があるストリートドラマや、国際デーでのイベントなどに比べて、より簡便により多くの住民に情報を伝えることができると思われる。一方でカリコット郡の電気の普及率は 5.2% に留まっているため、電気を使用するテレビから情報を得ることができる住民は極めて限られており、その点からもラジオによ

	ることができる住民は極めて限られており、その点からもラジオによる啓発活動は現地の実情に即した広報手段であると考えている。 また、青少年の性に関するパンフレットを作成し、簡易保健所に設置するリプロダクティブヘルスコーナーに配布して自由に閲覧できるようにする。これにより、多くの青少年や住民が正しい性の知識に触れられるようになる。
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	① これまでの事業における成果 お産センター建設はダイレク郡の6つのVDC（村落開発区域）で進んでおり、2012年8月末現在、土台の基礎工事を終えている。土台の基礎工事から4ヶ月ほどで完了する予定である。 公共保健機関のキャパシティビルディングとして、郡リプロダクティブヘルス委員会向けのリーダーシップ研修、並びにVDCレベル保健医療施設マネジメント委員会向けのリーダーシップ研修を実施した。研修受講者は71名。インプラント（避妊具）研修は6名が既に受講を終えている。 出産介助者研修は、7月31日に研修を始め、9月26日に全研修期間を終えた。9月末には12名が60日の研修期間を終えてダイレク郡に戻り、各自が所属する簡易保健所や郡病院で勤務を再開している。 ② これまでの事業を通じての課題・問題点 雨期である5月から9月頃にかけては建設作業が中断する。また、現地の規約に基づき、建設業者の選定の際には入札公告を新聞等に掲載後、15日程度の入札期間を設けた上で入札書類の開封・選定作業を行う必要があるため、入札から建設業者との契約、建設作業への着手までに2ヶ月ほどの時間がかかる。 また、ネパール国内の政局が安定していないため、学生団体や政治団体によるデモやバンダ（ストライキ）が頻発している。その際には特に車両での移動が制限されるため、資材の輸送並びに研修の実施に影響が及ぶ。 医療従事者などを対象とした研修については、ネパール政府が様々なドナーと提携しながら進めているため、申請時と実施時で求められる研修内容が異なる場合があることが、初年度の事業を通じて明らかになっている。 ③ 上記②に対する今後の対応策 お産センターの建設に関しては、雨期に入る前に入札、建設資材の調達、建設予定地への運搬までの作業を終えるため、今次の開始直後に広告の掲載ができるように、準備を進め、資材の輸送を雨期に入る5月までに終わらせる体制を整えていく。 バンダ等の発生に際しては駐在員及び現地スタッフの安全を最優先としつつ、建設業者や研修の講師らと緊密な連携を持ち、バンダを想定した研修予備日を設ける等の措置を講じ、影響を最小限に抑えるよう努める。 各種研修の内容については、平時からネパール保健・人口省の担当者を通じた情報収集を行ない、求められる研修内容の把握に努める。